

46  
62  
174

大 類 一 生 正  
金 口 庫  
大 阪 香 港 社 發 究

蠹くび銹くさり盗うがちて竊む所の地に財を蓄ふることを勿れ

### 金ぐら緒言

(賀祝)

この金庫ハ安息日學校生徒及び其他の幼少子女への  
 のクリスマスマス又ハ歳暮年玉等の恩物に適合する様よとして  
 つたなきしもの  
 まわらぬ筆よて  
 メーリー・ドッヂ  
 Mary Dodge女の著よ  
 かゝるへアール  
 ースリツチエス  
 Harry's Richesを全く  
 我が國の事實れ  
 様よ譯せしもの  
 めし恩師C.J.日綴文の瑕瑾及び假名違ひ等よ訂正を加へ  
 られたる親友瑞溪泉哉菊州の諸子に多謝するものなり

いともいやしき このからだ  
 あまつみかみに まみねん  
 としつきをほく たぬうち  
 つれのころも ぬきさうて  
 きよきぬぎを またふべし  
 やすみの時に いたりなば  
 ともしきことの あらばやは  
 とみこの身に きたるべし。

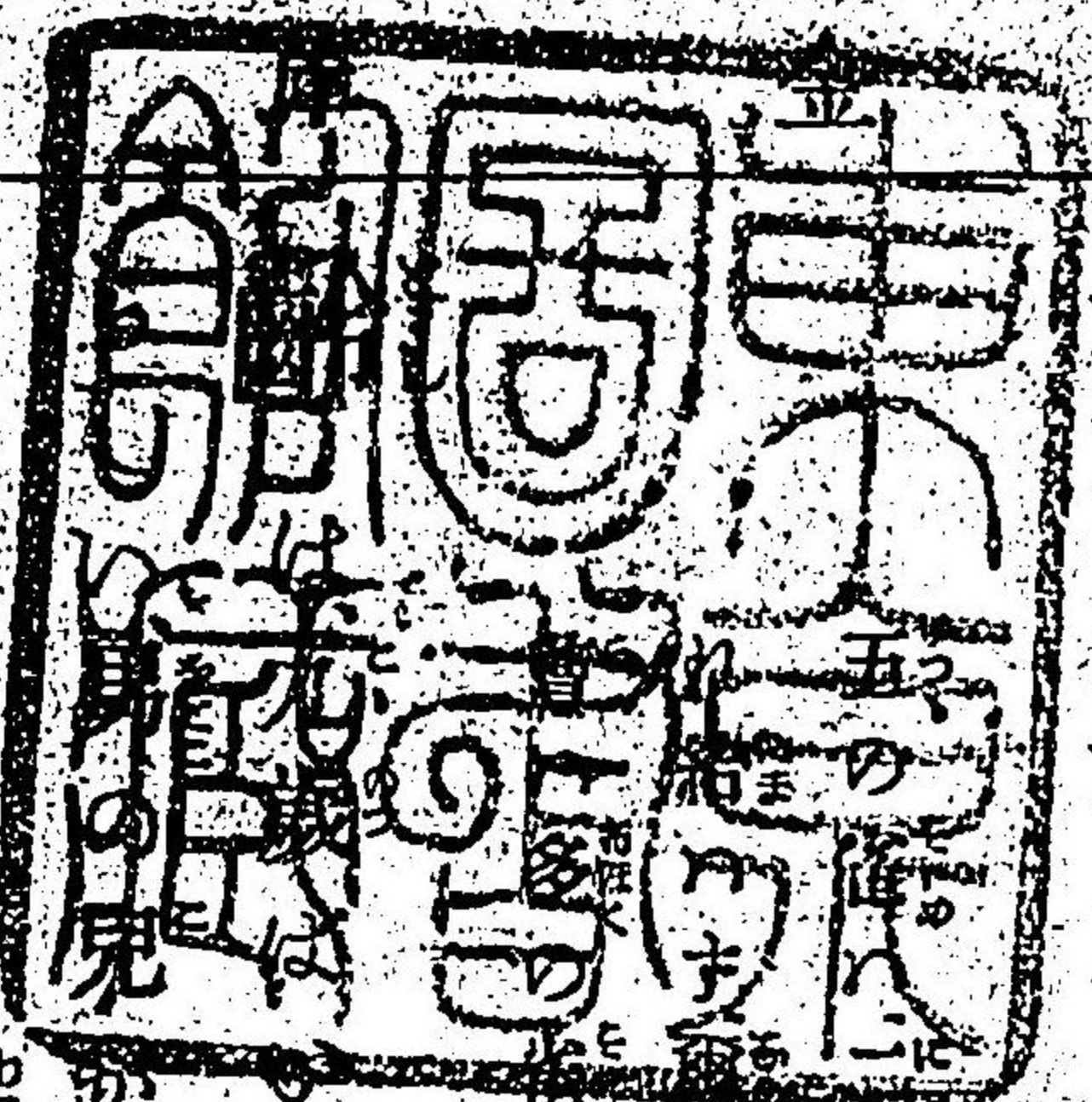
(作原—セツマ、ドルラケ)

明治廿四年十月下旬

奥羽の人 赤石頼一

蠹くび銹くさり盗穿て竊ざる天よ財を蓄ふべし(馬本六〇九一七)

## 金庫



## 赤石頼一著

錢よて售よ非ずや然るよ神に於ては其一をも忘  
 曹の首の髪また皆かぞへらる故よ懼るよ勿れ爾  
 より貴れり。

(路十二〇六一七)

のがまだよく解らぬ歳てす然し目よつくものハ何ん  
 ても欲しくなり日曜日よ母といッしよよ會堂よ行く



途中でも玩具店よ、奇麗か、赤青と色取した、人形かどの、あるのが目よいと直よ買ッてくれイ」とねだる質でした。

金

ある夏の日夕方隣家れ、工藤富藏といふ同年位の、朋輩と家の庭前よ遊んで居ました。工藤といへば其處邊で名のある金満家富藏ハ、その家の息子の事です。何時でも贅澤三昧でした。殊よ日曜日よ會堂に行く時かどハ「私は金満家の息子だぞ。」と人よ廣告をする積でもあります。まいが仲々立派な飾をして大体ハ絹衣しようといふ装束でした。

庫

悟庭前よ二十分も遊んでいました。直歸りて来て家よはいり母よ向ひ。

金

「子ー阿母さん、お隣の富さんハ子ー今日両方の袂よお金をたんと持ッて居ましたよ。」とだしぬけよいへど母ハたゞ鼻の上で、

庫

母「フー、うかひ。」

悟「そうして子ー阿母さんもしもッとお金が欲しいから何程でも貰ふ事が出来るとサ。」

金

母「それハ誠よ結構かこッた子ー。」

庫

悟「それだから私もサ……」

金

庫

母「それだから私、何したって、おいひのだね。」と、嚴格  
 母に問はれて見れば、流石よ、小供の心「私も金が欲  
 しいの。」と、あからさまにも言ひ兼ねて、誤魔化し半分、遠  
 まわしよ、變な苦い様を顔をしるがら、  
 悟「イエーサ、たゞ富さん、あの先日、阿母さんといッ  
 しよよ、市街を通ふつた時、むるふの玩具店で見ました  
 様を、ブリツキで製造た、鉄砲だの、うれから、また、木馬だ  
 の、色々玩具を、澤山持つて居ましたといふのサ。」  
 母「富さん、うん、おれものを、澤山持つて居ると、何かの  
 だね。」

金

庫

悟「別よ、おんとも、おれのですげれど、拙家ハ、貧乏で私  
 アうん、おれものが買れぬおと思へば、悲しくつて、おれま  
 せん。』と、言葉を、終はるとたんよ、涙の雨ハ、悟が両の  
 頬を破りて、降り出しました。言ハ、おと、知れたこと！こ  
 のバラ、く、落つる涙の音こそ、ハ、阿母さん、私よ、富さ  
 んの様よ、玩具を、澤山よ、買ツてくれイ。』と、せびる聲よ、同  
 じだのです。母のお愛ハ、今自分の小供が、悪くだゞける  
 のぞ、見るよ、つけ、何程か慰めて、やりたいものとの、こく、  
 温い心から、

母「拙家ハ、お隣家の、工藤さんのお家の様よ、金満家と

いふ程でもさいが又貧乏といふ譯でもありませんよ、

マ一貴様、ヨ一まづお聞き……………」

悟『イエー、どうであります、貧乏です、そりア阿父さ

んや阿母さんハ金持だかも知れませんが私だけハど

うしても本當な貧乏です、衣しようや食物の外ハ別な

お金をだして買ッたといふ様をものハ持ッていませ

ん、ワ…………フフ…………フー』と泣聲出して、サツバリ人のい

ふ事ハ耳に入れません。世間ハ『馬の耳ハ念佛』といふこ

とが、あります、が、こゝういふ時の事を、いッたものでしよ

う、母も大よもてあましました、が子と思ふ親の心ハ誰

金 庫

人も同じこと、何かして、よい分別を我が愛い子よ、させ  
てやりたい、ものと裁縫も何もうツちやツて、悟の方  
向き、

金

『貴様マ一、あんまり、そんな譯のわからぬ事を、いふ  
もんで、さいよ…………』と、話の糸口を解きかけよ

庫

うと、しますと、二三日前より、四五里ある處から、泊りよ  
来て、今まで、傍な二人の話の、一部始終を、聞いて、いまし  
た、悟よ、とりてハ、伯父よ、あたる、目下部教助と、いふ人、一  
本、まいたとも、何とも、言はず、傍道より、その話よ、横槍を  
いれ、だしぬけよ、

金

伯「オイ悟や、ずこし、入用だからチー、貴様の両方の目  
と伯父さんよくれんが、くれたら、お禮よ、二圓現金で、  
あげるよ。」と言はれて、悟は、さも驚いた、といふ様を、顔  
付として、

庫

悟「わたしの目とくれッてイ。」  
伯「エー私ハ、貴様の目を、欲しいのだ、取るよアお薬を  
吞まして、眠らして、するんだら、別よ、痛いあんて、こと  
ハ、おいよ、そうしてチー、取りた空穴にア、硝子で製造た、  
奇麗な玉眼を、いれてあげるから、見悪いこと、あんてお  
いわチー、取るよは、じきだよ、長くハ、おらんわチー、今

金

爰で、お金二圓直よ、あげるから、おくれを、一分許で、二圓  
貰ふとア、よいことツちや、おいおチー。」

庫

悟「私の目おんぞア、何を事があッても、他人よア、やれ  
ません。」と、やツきよ、おりに言ハバ、  
伯「うん、おん、五圓でも、十圓でも、廿圓でも、貴様の欲し  
いだけ、あげるから、おくれを。」  
悟「イーエ、例へ千圓くダスッても、上げることハ、出来  
ません、目が、おいと、貴公、阿母さん、赤兒も、お朋友のお  
顔も、見られませんか。」と、否を、みました、から、伯父ハ、  
「千圓でも、賣りたくおいと、いふの、おん、二千圓で、買

金 庫

ら。』といひました。然し悟はそれでも承知しませんか

『二千圓より高くてもやア、外に仕方がない。残念だが  
まアうれア、よしよししよう。』といひながら懐の間から  
何か手帳の様なものを出して記しつけました。して、  
また、二三分もたつてから、

『おア、貴様もし目の二千圓でも賣れぬといふから  
外に仕方がないが、その代り、こゝにある瓶から耳もち  
よツとお薬をたらせんかぬ、うりすると、ご褒美は廿  
圓あげると、お薬をたらしたから少し、痛いといふ事も、



夏  
幸





とられた顔をしるがら、

金  
庫

「私をつんぼよするのから、三千圓くだすつても、お薬はさへせません、つんぼよさつたら、貴公どんを面白くも、いことがありても、聞はしませんもの。」と否んで、いふのみでして、伯父ハ、また何る手帳よとめまして、して亦伯父ハ、續けて五千圓やるからの、一万圓やるからの、二万圓やるからの、と段々金高を上げて、手とくれの、足を借せの、鼻に觸すれのと、承知のしううも、い、難題ばかり、色々かけました。伯父の考の通り、悟ハ、一向承知しません、たゞ、氣味が悪いといふ様を、顔色をして、頭を

金  
庫

ふるのみでして、  
最早伯父も、難題を、かける事ハ、やめました、それから、三分も、たちました。  
悟ハ、さへ、疲れた、といふ様よ、手を組んで、項の上へあぐり、欠伸をしるがら、口の中で、  
「ア……アア……誰だッてあんな大金を私の處よ拂へるものか、フリー。」  
伯父ハ、少時の間、無言で、手帳をみつめて、居ました、が、やゝありて、今までよりハ、少し聲を、高めよし、少し、嚴格よ坐り、悟の方よ、眞向よあり、

伯「悟貴様、ほん、馬鹿だ、チー、先刻から貴様よ、わしがやらふ、といッた、お金ハ手帳を見ろと、直よわろるが、六万圓程もあるよ、貴様何故、ろんを大した、お金を、人がくれる、といふのよ、貰ふといはんのだ。」

悟「だッて貴公……」

伯「フッ、だッて、もかいものだ、貴様、先刻、貧乏で困まる、貧乏で困まるッて、阿母さんよ、口説いて居たッけが、今私が六万圓を、やる、といふのよ、いらぬ、といふを、見てハ、貴様よ、ア、七八万圓も、はいりて居る、金庫でもあると見ゆる、チー、ろんを金持で、居ながら、貧乏で困まるて、ア

金 庫

金 庫

「一体なんのこッたね。」との、この言葉が悟の耳の膜に響いた時、ハ、悟の心臓ハ、剣でも刺さるゝ様よ、うの言葉の端よ、咎められました。してこれよ、ハ、別よ、返事の仕用も、ありませんでした。たゞ、穴があれば、えいりた、いと思ふ程よ、面目なく、恥入りたといふ様よ、顔を赤くし、母の膝下よ、すりより、小聲よ、かり、うつむいて「どんか、人でも貧乏か、人のかい様よ、神様は、してくださると、ハ、ありがたい、ものです、チー。」と泣く様を、むせび聲で、一語を、いひだしたのみでした。ろの時、悟が、顔を、のぞき見れば、桃色の愛らしい頬を、つ

金 庫

たわる涙二つ三つ四つ。  
讀者子女これハ何の記号としよう？

(おはり)

明治二十四年十一月廿五日印刷

明治二十四年十一月廿六日出版

著者  
兼行者

青柳 猛  
京都市上京區相國寺門前町  
一番地同志社寄留

印刷者

岡本 藤五郎  
大阪市北區老松町二丁目  
百卅七番屋敷

發行所

福音社  
大阪市西區土佐堀三丁目

空

020320-000-1

特16-482

金庫

メーリー・ドッチ/原著

M24

ABI-0126

